



Inona ny vaovao?

イヌナ ニ バオバオ?
何か良いことあった？

マダガスカル 青年海外協力隊 通信 第9号 (2018/6/15) 福長 輝侍

今回のテーマ：マダガスカルのお家特集 マダガスカルの生活の様子とは？

福長 輝侍 (FUKUNAGA TERUYUKI)

隊次：2017年度2次隊

活動国：マダガスカル

赴任地：アンズブルベ

(首都から約3時間)

職種：コミュニティ開発

前職：教師(非常勤/社会科)

出身：岡山県・岡山市



マダガスカルってどんなところ？

公用語：マダガスカル語・フランス語

人口：約2500万人(日本の6分の1ほど)

国土：587,000 km²(日本より大きい!)

首都：アンタナナリボ

宗教：キリスト教及び伝統宗教、
少数派イスラム教

民族：約18部族



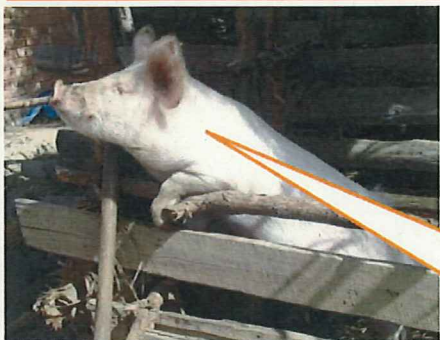
① 農村編 - オシャレなポイントと作り方-

マダガスカルの農村の家はどんな感じなのか。



横の壁のデザインがオシャレの決めて

この写真のように家の横の部分を見ると、家のおしゃれのポイントが丸わかり! 上部には白いレンガをちりばめて、レンガの部分には窓に青色を取り入れ、2階の板にはいろんなデザインが。見比べて街歩きをしてみよう!

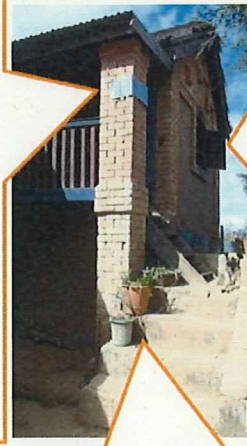


レンガ造りの二階建て マダガスカルの多くの家は、レンガ造りで、二階建てが多いです! レンガは冬に田んぼで作られます。二階建てを支えているこの部分はレンガを積んだだけ! 地震に弱いなんて、考えるな!

この鉄板が病気を防ぐ? 農村の家の2階の近くには、謎の鉄板が取り付けられています。「ノックして呼ぶため?」それなら、大声で呼ばばいい。実は、「ペスト」という病気をうつすネズミが来ないための工夫。けど、鉄板は途中で足りていない、ほかにも道がある。鉄板に代わるアイデア募集中です。

ほぼ二ワトリ、時々豚 お祝い時には豚肉が欠かせません。家の敷地には、豚小屋がたまにあります。

気を付けろ! ドアは低いぞ! マダガスカルの注意点、それはドアが低いこと。うっかり家に入ると、頭をぶつけます。身長が日本人より低いからかもしれません。



真っ黒の窓 この矢印が指しているもの、それは真っ黒の窓。2階の窓がなんで真っ黒? 実は、料理のすすで窓が真っ黒に。たいていの家のキッチンが2階にあります。

植物が大好き、マダガスカル 多くの家では、植物を育てています。僕は植物の種類がわかりません。植えているマダガスカル人も時々知らない。

② 例外編 - 海と山では家が違う、ソーラーパネルは魔法の板 -

ここからは、地域別であったり家の特徴を見ていきましょう。



山の家は土、海の家は木

マダガスカルは山がたくさんあり、ほとんどの家は、土またはレンガ造り。海沿いに行けば景色が一変、木造の家になります。暑いし湿気も多いので、湿気に強い木造が作られています。どこまでレンガ造り（土）で、どこから木でできているか見てみよう。



ソーラーパネルは魔法の板

アフリカでも最近ではスマートフォンを持っていたり、ワールドカップをテレビで見たり。日本がベスト16になったことは超話題。しかし町には電気が少ない。なので、家にソーラーパネルを置いている家が多く、一枚のソーラーパネルで家の電気をすべてまかなっている家が多くあります。



キレイ好きなマダガスカルハウス

マダガスカルの家は土足である家が多いです。ただし、家の中はすごくキレイ。地面に座ろうとしたら敷物を必ずくれます。もし、マダガスカルの家に入る際にはちゃんと汚れをおとしてから上がりましょう。

家の周りは「さく」を作ってがっちりガード ;マダガスカルには、「ダハール」と呼ばれる牛強盗がいます。ダハールはすごく危なくて、夜に農家をおそって牛を奪っていったりします。そうした強盗たちから家を守るために、家の周りは「さく」で囲まれています。竹はまだ痛くないですが、木を削ってあるやつは刺さるので、ご注意ください。



③ 学校のストライキ - 先生のストライキで学校がストップ、子供は勉強できない -



この写真は何をしている様子でしょう。小学校の先生が「給料アップ」を国に要求するストライキをしている様子です。現在、マダガスカルは公立の小学校・中学校・高校はストップしています。先生たちは、「給料アップするまで仕事をしない」、つまりストライキをしているからです。確かに、先生たちの給料や手当は少ないです。マダガスカルには、先生は資格によって給料が変わり、全然お金がもらえない人もいます。ストライキと聞くと真剣そのもの、しかし先生たちは「明日は仕事をしない♪」など歌を歌いながらの行進。これも文化。

④ 自分が生まれた町が - お金も物資も大事ですが人が必要 -



この写真は、僕が小学生の時にやっていた野球チームのグラウンドの様子です。本当は、この写真には野球のグラウンドが見えます。しかし、バックネットが水につかっているだけです。先日の大雨の時に川があふれてこのようになってしまいました。「まさか自分が生まれた町がこんなことになるとは」。東日本大震災、広島土砂災害のボランティアをしてわかったことは「お金より物資より人が必要」ということです。家から泥をかきだすためには、ショベルカーではどうにもなりません。道路が直っていない道では、車ではなく人が歩いて片づけるしかありません。被災者のしんどい気持ちには、お金や物資よりも、支えてくれる人が必要です。国外で何もできない私にこんなことを言う資格はないですが、1時間でも大雨で被災した地域に足を運び、何かを手伝っていただければとても嬉しいです。